広島市医師会

健康メモ

パーキンソン病とは

広島市佐伯区医師会副会長
町田内科・神経内科クリニック院長　町田　仁史

まず神経内科とはどのような病気を診る診療科かを説明しましょう。神経内科とは脳、脊髄、筋肉、末梢神経等が感染、血行障害、腫瘍、遺伝といった原因によって起こる病気を診断・治療する科です。従って不安神経症、うつ病など精神科や心療内科領域の病気とは異なります。

次にパーキンソン病について説明します。

パーキンソン病はイギリス人のジェイムス・パーキンソンが初めて報告し、中年以降に発病することが多く、振戦（しんせん）、筋強剛（きんきょうごう）、動作緩慢、姿勢反射障害を主な症状とする慢性進行性の疾患です。後に脳炎後や脳梗塞後遺症、薬の副作用でも同様の症状を起こすことが判り、パーキンソン症候群と呼びます。

振戦は手、足、頭などに起こる震えのことです。特にじっと安静にしている時に起こり、何かをしようとすると消えてしまうのが特徴です。

筋強剛は患者さん自身が気付く症状ではなく、医師が患者さんの肘や膝の関節を曲げたり伸ばしたりした時に、医師が自分の腕にカクンカクンと筋肉の抵抗を感じる症状です。動作緩慢は動作が遅くなる、のろくなる症状です。歩くのが遅い、寝返りを打ちにくい、着脱衣が遅い、食事の動作が遅くなるなど、日常生活の中で患者さん自身が感じ、周りの人が見てもわかる症状です。姿勢反射障害は椅子などから立ち上がろうとする時に姿勢の変化を改善する反応が障害されているため体のバランスをとることができない症状です。

その他、歩行が前かがみで、自然な腕の振りが少ない、歩幅が狭い、足を引きずるなどの歩行障害や、まばたきが少なく仮面の様な顔つきになったり、小声で単調な話し方も認められます。また抑うつ的で何にでも億劫がり依頼心が強くなる場合が多いようです。

治療は薬物療法と手術療法がありますが、基本は薬によるものです。現在は効果のある種々の薬剤があり適切な治療を行えば症状を改善したり進行を遅らせることが可能です。

マイシティ　キラリ　マイドクター
広島市医師会
www.city.hiroshima.med.or.jp